夏期講習會感想

――文部省及日本幼稚園協會主催――

講習の後に

大磯小學校附屬幼稚園　須子啓子

少し東京から引込んでしまひますと一月一回の研究會にさへ出られなくなつてしまひます。取り殘されさうな氣持がしては本だけでもたくさん讀まうと決心したり、何よりも子供から學ぶことが第一とフレーベルになりすまして無中に一日送つたり、それでもやはり時々古巢(と云つても、皆さん、あの理想的モダン園舍です)におゐでの先生方のお顏を拜見したり直接お聲をお聞きしないと何か榮養不足の氣持が致します。こんな氣持からばかり皆さんおいでになるのでは無いでせうが、私はこんな氣持も隨分たくさんで講習を待つて居た一人でした。毎日毎日官報をひつくり返して見たり(官報なんて云ふものにこんなに親しみを覺えたのは初めて)「參りましてもよろしうございませうか」と伺つて「そんな聞き方をしてはいけない」と校長先生一つまり園長、しかしかう申し上げた方が感じが出ます―にお叱りを受けてどうしてかしらと不思議に思つたりしましたが結局二十二日には出席出來てホッとしました。今年は會場入口に去年の樣な立看板が見えませんので標札の無い家の玄關に這入つて行く樣な氣がしました。昨年の幼稚園協

會の講習會に比べてなんとなく官僚的な冷たさをまづ感じたなんて云ふのはあんまり正直過ぎてどうかと思はれますから伏字にでもして戴くことにして、倉橋先生の御講義は相變らずたくさんのよいものを與へて下さいました。敢てクラハシャンならずとも保姆である限りに於て、かならずたくさんの滿足と感銘とをあの御講義の中で受けたことと思ひます。

去年の夏の御講義を一年間考へつゝ働いてそこに又段々出て來た疑問をスパリと解決して下すつた樣なお話もあり私達には思ひも掛けぬ樣なよいお言葉で保育項目取り扱ひの要領のお話があつたりでした。去年の御講義を今一度講習前に讀んで來るか今度の先生の著書「保育法の眞諦」をもつとよく讀んで來ればよかつたと、これは殘念に思つたことのひとつ。

保育項目取扱ひの要領と云ふ中での談話の處などあの樣に迄深い思ひをもつて考へてゐらつしやる先生に對して餘りにも輕く淡い氣持でそれらを考へてゐる自分を恥かしくさへ感じました。日常の談話でなしに、ある一定の話として出來てゐるつまり藝術的談話、これを生活の中に發生さしてくるには如何したらよいかと云ふ處で、「先生がよき話手である前によききゝ手であることにまづ要點を置き度い」と云ふことを話されたが、このきゝ手と云ふ字をわざわざ假名でお書きになる先生のデリカシー、これは先生の文學的教養から來た深さなのかも知れませんがとにかく私の樣な粗雜な人間は先生のお考へになつたことの何割かを割引してしか受け取ることが出來ないのかも知れないと思つてほんとに殘念です。又談話の中で內容效果について話された時に仰言つた「教育者は目的に片寄り過ぎてそれの持つてゐる特質を尊重しない、だからお話は生きてこない」と云ふこの御言葉はお話ばかりではない大切な問題だと思ひます。

お話のことばかり書きましたが製作(手技)に關してのお話も先生が保育項目中の重點?を置かれるものだけ又よいお話が伺へてうれしうございました。

製作そのものが子供の生活から離れたものであつたならそれ丈又罪は大である、と云はれた時、ひそかに省みて冷汗

が少々ばかり背を流れる氣が致しました。製作々々と一つばし昨年のお話を體得したつもりでやつて居ても子供にとつて非生活的なものが多かつたのでは何もならない處が却つてそれは禍だつたのですから。及川先生の手技製作の講習はこの意味から云つてもほんとにうれしいものでした。可愛らしい花子さんの洋服をぬりゑしたりお椅子を切つたりしながらすつかり氣持がよくなつてしまひました。子供等が明るい青葉に圍まれた部屋でこれをこしらへながら遊ぶ時どんなにまあ幼稚園は樂しい處になるでせう。

ですけれど私はその次にこんなことを考へなければなりませんでした。「あの四十人近い子供等と狹いたつた一つのお部屋、そこへ持つて行つて、これらをどんな風に消化して與へたらよいかしら」。

附屬幼稚園では內も外も、どちらをむいても私は自分の子供等の幼稚園を思ひ出してそのあまりにも理想に遠く隔たつた存在に憂鬱になつてしまひました。しかしそこで少しでもよい保育を、少しでも理想へと努力することが大きな仕事であり勉强なのだとはいつも思つて居ます。

去年の講習で教へて戴いたお魚はとてもうまく利用(と云つては少し變ですが)されて自分ながら嬉しうございました。今度もこの花子さんが子供達によい遊びと豐かな生活を與へてやつてほしいと願つて居ります。

新庄先生の幼稚園史の御講義も短時間でございましたが早くこの世界にお働きになつた方々の御苦心なども忍ばれて色々お感じになつたことが皆樣も多いことゝ存じます。今度出版されました「日本幼稚園史」をこの夏休み中に讀むプランを立てゝ置きましたがこのお話を承つてなほ興深く拜見出來ます。

今年の講習は始めから終り迄あの變調な天候の爲に涼しく倉橋先生の瀟洒たる和服姿を遂に拜見出來ませんでしたが午後の遊戯の講習などにはほんとに幸でした。お暑いと第一戸倉先生にお氣の毒で、そう思ふ神經の働きがこちらの記憶力をいくらかマイナスするのですが今年はその心配がなかつた爲かよく覺えてあれから二旬近い今日もしつかりと記憶致して居ります。倉橋先生にも安心して戴き度いと存じます。遊戯はどれも〳〵技巧的な大人のうまさなど

必要としないうれしいものでした。今迄大して氣にも止めずに居た普通の遊びがすつかりリズム化されて「たからさがし」だの「子とろ子とろ」の樂しい遊戯になつて出て來るのです。すゞめのおやど、キューピーさん、インドの兵隊などお見えにならなかつた方どなたにもお傳へし度いと思ひます。

どれもさうですが歌詞のない遊戯などには殊によい樂器よいリズムよい音を與へてやり度いと思ふのですが自分の音樂的無能と樂器の粗末さとを思つて悲觀して居ります。

あまり自信も無い文章を長々書きますのは實に氣が引けますが、あと一つ質疑應答のことだけ書かせて頂きます。

本音を吐く

新庄先生が「何か書け」と仰有る。「今度は御許しを」と拜んでも、「ならぬ、ぜひ」と仰有る。

原稿紙を置いて「では必ず」と仰有る。

「皆さん意見はたくさんあるが質問なんかは無いのだらう」なんて倉橋先生が云はれましたがもつとどん〳〵お出しになつたらと思ひます。私の樣な愚問でお暇をおとりしてはなどそんな謙遜は今年だけにしたら愚問賢問どしどし殺到して先生もきつと張り合ひがおありにならうと思ふのですが。

第二保育期が始つて子供達はどんな顏してやつて來るでせう。この講習で又新鮮さを取り戻した心と身體でよく迎へてやり度いと存じます、終りに講習中お働き下さいました先生方に感謝致して筆を置きます。

九、八、十三。

文華幼稚園　留岡よし子

御命令に背くと、九月になつてから毎朝新宿驛で、毎夕大塚驛で、新庄先生に見付かつては大變とビク〳〵しなければならない。その精神的負擔を考へると恥さらしの樣で